

# 子どもの生活と子育てにおける世代間交流の推進プロジェクト ～ 地域に根差して引き継がれる育児の工夫や知恵伝承の実態調査 ～

## 研究の背景及び目的

本プロジェクトは、子どもたちが健やかに育つ環境づくりや関係づくり、さらに安心して子どもを生み育てられる社会環境の実現のために、子どもの生活と子育てにおける世代間交流を促進することで、子どもの健康と成長を守り育てる地域の子育て環境を維持・推進できる人材育成のために取り組むものである。

少子高齢化社会においては、地域の中で子どもたちが健やかに育つ環境づくりや関係づくり、さらに安心して子どもを生み育てられる生活環境を地域の関係団体などの協力を得て、地域ぐるみで作っていくことが求められている。

漁村地域では、男性が遠洋漁業にでることで長期間、家庭に不在になり、積極的に育児に参加することが不可能であることから、共同体としての結びつきが強く、育児や地域活動を女性が中心となり、担うことで、独自の育児文化やその伝承があったことが考えられる。

そこで、宮崎県南部の水産業を営む地域において、子どもたちが健やかに育つ環境や関係づくり、さらに安心して子どもを生み育てる環境を検討するために、高齢者が語る地域に根差して引き継がれてきた育児の工夫や知恵を明らかにする。

## 実施状況

### 研究方法

#### 1. 研究対象者

日南市・串間市の水産業を営む地域に在住し、育児経験を語ることのできる80歳以上の女性

#### 2. 研究方法

データ収集方法： 面接調査、現地視察と聞き取り調査、その地域の歴史や産業に関するデータ把握など

データ収集期間： 2015年10月～2016年2月

面接： 研究協力者の自宅や公民館の一室でプライバシーを確保して行った

面接内容： 女性の育児に対する価値観、育児経験、協力サポート体制、伝承の内容や方法、コミュニティ活動など



### 結果 1

研究協力者の年齢は、80歳から92歳の育児経験のある女性9名であった。平均年齢は84.6歳、子どもの平均出生数は3.56人であった。夫の職業は、漁業であり、マグロ漁業、カツオ漁業、定置網業である。そのため、遠洋漁業や近海に出漁していることが多く、積極的に育児に参加することは不可能であった。

### 結果 2： 研究協力者の子育て期の生活と地域コミュニティ

#### 子育て中の家族の生活の営み

##### 【顔見知りの関係の中での漁業】

「最盛期は100隻、マグロ船がおったよ。」「あの頃は地元の間ばっかりでしよったよ。」  
「船員の引っ張り合いが激しかったよな。」

##### 【夫婦で朝から晩まで沖に出る】【カツオ船と小舟で暮らしを支える】

「毎日朝、もう朝2時3時にでかけては。夜もう、暗くならんと帰らんとよな。網小屋があって、仕事場があつてな。」  
「カツオ船に乗ったら近海の時は1週間は帰ってこなかったですね。カツオ漁が終わったあと、今度は自分の小舟で行って、今度は小さい魚、アジとかを取ってきて。」

##### 【母親が一人で家業を取り仕切りすべての決断を行う】

「相談したい事を相談できんし、決断せんといかん。」「どしても自分が1人な、切り回さな、ならんかったよ。」  
(中略)10日勘定って言うてな。漁業の水揚げは10日だったらな、締め切りが来たらよ10日、10日に勘定せんなん。」  
「あんまり人に聞いてと言うよりは、一人で決めてすることが多かった。」

##### 【みんなと同じ食べ物で調理方法を工夫する】

「から芋なんかむいて(笑)。柔らかくて、片栗粉とか。お味噌汁に混ぜて。」もう一緒に食べさせよったよ、昔はな。今んごつ、念を入れては食べさせよらんかった。」「まだ固いもんはやられんからな。固いもんを潰してな。かぼちゃみたいなもんは柔いからねえ。あんげな物食べさせたりとかよ。」

#### 子どもを育てる姿勢や基盤

##### 【子どものしつけ】

「人に迷惑をかけたらいかんていうこと」「曲がったことを言わない子に育てましたね。」「怪我もさすつといかんちゃんいねっち言うちかいよ。チャンチャンバラ、竹の棒はなあ、自分を叩いてもらち、痛いどがち言うてかい、人も痛いちゃんい怪我さすんもんじゃねえどち言うてかい。」

##### 【子育ての中で教えを受け影響を受ける】

「まあ特別な育て方はせん。子育ての先輩に聞くとか、先輩が教えやつか。もう自然と。」  
「そご駄目、駄目って、カーってするなって言われよったですね。とにかく子どもがこーなって(落ち込んで)くるかい、姉から」

#### 幼少期からの生活経験を通じて培われる子育ての基盤

##### 【自分のきょうだいを日常的にお世話した経験】

「かろて言うたら、背中におぶって、昔わよ。学校行きよったの。忙しい田植えとか、なんとかお父さんが戦地に行ったからな。」「お風呂はおつかさんが入れな、いかんかったちやうな。上がったら、こらこら、あがつたど、着物着せんか、何せんか、そんなことはもう、子どもたちにさせよったわなあ、やっぱりな。」

##### 【上の人から自分で見て学び考え行動する力を身につける】

「そりゃ、みて覚えるこちやな。上をみちよって自分たちで覚えよった。あんげしたら怒るつとか、こんげしたらいかんなんとななっているのは自分で考えよったがな。」

##### 【母親の働く姿を見て子どもが直に感じ取る】

「もうお母さんが一人でしやならんちゃからな。子どもを見ながら、畑に行ったり、山に行ったり。今のよう金取して、金で買うものがないからなあ。自分で全部たぎぎ1本からなんから全部、みんな自分で自給自足で畑から取って食べならよったから。もうおつかさんなあ。」

#### 近隣関係の絆

##### 【自分の子どもと同じように分け隔てなく育てる】

「自分の子どものように育ててきたよ。怒るときには怒って。」「人が気をつけてくれな、なあ、やっぱなあ。あら、こん子はあんげしよっけど、うっせちよっていかんわって、やっぱな。」

##### 【食べ物を分け与える】

「食べるもんとかです。目が覚めてみるとですよ、米がいつちよつとですよ。田舎の祖母ちゃん達が持って来てくれるですよ。」「あのお乳がでない、そういう方達にも、もらい乳みたいに飲ませてましたね。」

##### 【多様な子育ての担い手】

「きょうだいか周りの人とかが居るから、かせいにきてもらったり、お母さんがおつたしな。」  
「昔はね、隣の赤ちゃんが泣いてたら、なんでって抱っこしてやったりしてましたもんね。」  
「隣の娘さん達が見てくれてな。取り換えひつかえかわいがってくれますおつたわ。」

##### 【できるときに父親が育児に参加する】

「魚をこしらえたりですね。かせいをしてくれましたね。」「おる時にはオシメを換えたり。」  
「夜のオムツ換え、子どもはかわいがりよった。なんでもしやおつたよ。」

##### 【世代を超えた世代間交流】

「みんなが顔みしりて注意してくだおんかった」「上人を見て、きょうだいを覚えて」「もう自然と上人もんが下んもんも教えて、下の子も覚えて。」「もう一軒、一軒に子どもがおつて。そして仲よく遊びよったけどな。」「住む人が変わらん。つながりばっかりや。」

##### 【周りの子どもと一緒に遊び楽しい気持ちを大人と共有できる時間をもつ】

「海に連れて行きよったですね。小さい船を。それにみんな乗って、ちょっと外にでて、ちっちゃい魚を取って。そういうことはちよくちよくやりました。」

##### 【子どもの健やかな成長をみんなで祝う】

「節句とか、しよったな。今よりもしかりしよったなあ、お宮参りとか100日のお祝いとか、名づけ祝いとか。」  
「それはもうちゃんとしてんと。霧島神社に連れて行きましたね。」

##### 【共通の文化伝承行事活動】

「お盆は変装して踊りよった朝まで。みんなこらこら各家を回りよった、変装して。それが楽しみでよ。」  
「虚空蔵菩薩がな、それがにぎやけかったよな。」「お祭りなんかは連れて歩きよったけんどんよ。」

### 考察

コミュニティの人と人との関係の中で子どもが育つ環境があり、子どもの時からの生活経験によって子育てに必要なものが培われていた。そのことは、将来親となり、子育てをしていく準備へとつながっているため、幼少期から日常生活の中で、子育ての体験として子どもをお世話できる体験を繰り返し経験していくことやコミュニティの中で世代を超えた世代間交流ができる環境を整えて行くことが重要である。

## 目標の達成度及び成果

今回の調査地域は、現代においても世代間交流としてのコミュニティ活動を行う基盤をもつ地域であることが見いだされた。

子育ての体験として、幼少期から日常生活の中で子どもをお世話する体験を繰り返し経験していくことが親となり子育てをしていく準備へとつながっていることが示唆された。

子どもの生活と子育てにおける世代間交流の実態と高齢者が語る地域に根差して引き継がれてきた育児の工夫や知恵について明らかにすることで目標は達成できた。

## 今後の課題及び展開

コミュニティの人と人との関係の中で、子どもの時からの生活体験によって子育てに必要なものが培われていた。幼少期から日常生活の中で、繰り返し子どもをお世話していく体験を積み重ねていく経験がどれも重要な意味をもつことを示している。家族と地域コミュニティが果たす役割は重要であり、幼少期から子どもと親と一緒に育児体験できる環境を整えることが必要である。そのため、セミナー等を通じて、家庭と地域の中で、子どもと親が子育てについて話ができる機会を設けること、子育てが日常の中で連続した生活そのものであることを考えていける取り組みを地域と連携して行っていくことで次世代育成へとつなげていく。